

長住協活動が業界誌面で紹介されました

新建ハウジング 2020年1月10日 発刊

THE SHINKEN HOUSING

2020年1月10日 3

標準化

消耗部材を標準化、「交換しやすく」

住宅の長寿化へ建材・設備メーカーが連携

住宅の寿命を延ばす一つの要素として、建材や設備の消耗部材の「交換のしやすさ＝部材の入手しやすさ」が挙げられる。建材や設備に不具合が生じた際、交換部材が入手できないと、全て取り換えなければならなくなり、住まい手は大きな費用負担を強いられる。そういったケースが起きないように、住宅、建材、住設機器の各メーカーなど104社が加盟する長期使用住宅部材標準化推進協議会（会長＝中村康夫・大和ハウス工業上席執行役員）は現在、長期利用で交換が必要となる部材の寸法を業界内で標準化することを目指して活動している。

同協議会の幹事を務める住永敏之さん（大和ハウス工業・CS推進部）は「住宅を構成する部材・設備は約数万点あるが、そのうち長期使用で交換の可能性があるのは約700品目」とし、「協議会では早急に寸法共通化が求められる105品目について2019年度末までに基準を策定することを目指す」と説明する。

対象となる部材の選定について、協議会の標準（共通）化評価委員会委員長の津下清志さん（積水ハウス・渉外部）は、「消費者や住宅・設備建材メーカーのアフターサービス担当者、ホームセンターの店舗スタッフにアンケート調査などを行い、その結果をもとに施工が一番困っている部材を優先している」と話す。

標準化の対象部材が決まると、部位ごとに設けた分科会で、市場に供給されるあらゆるメーカーの製品と、その寸法図面を集め、時には実物を持ち込んでおさまりの違いなども比較しながら、標準化に必要な基準を検討。「過去の累積出荷量や現在のシェアを調べ、市場への影響も含めて慎重に決めていく」（津下さん）。

「CJK部材」として認証

分科会でまとめられた案が正式に基準として決まると、基準に適合する建材や設備は協議会から「CJK部材」として認証され、CJKマークが刻印されるものもある。昨年3月時点で、61メーカー・88点がCJK部材として認定されている。

各メーカーにとって、製品のディテールの形状寸法の違いは付加価値の一つで、売り上げを左右する。「当初は寸法を標準化する意図を誤解され、各メーカーから反対意見も多くあった」と住永さんは振り返る。

しかし、寸法を標準化するのは交換部材のみで、メーカーのデザインや機能性を制限しないことや、標準化が金型や部材在庫の削減によるコストダウンにつながるといったメーカー側のメリットを根気よく説明し、徐々に業界の理解を広げていった。

標準化としては「1製品に1寸法のみ」が理想だが、老舗メーカーの建材や設備では、それぞれ過去の累積出荷量が膨大にあり、新たな寸法変更が長期使用を妨げてしまうリスクもある。ただ、その場合でも数種類のパターンに絞り込んだ標準寸法を公表することで「部材寸法が無制限に拡大するのを抑止する効果はある」（津下さん）。企業の社会的責任も問われる中、「差別化の必要がない一定の範囲で協議会の基準を採用するメーカーも増えつつある」（同）という。

最近では、汎用性の高い交換専用部材を独自開発するメーカーも出てきた。例えば建築・サッシ金物メー

カーの中西産業が販売する「万能クレセント」は、金具取付用のビス穴を長穴形状に加工することで、多くのメーカーの交換部材として対応できる。協議会では、こうした製品もCJK部材として適合認証することで、取り組みを後押ししている。

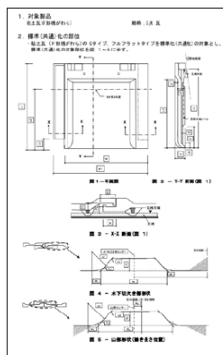
災害復旧でも効果発揮

標準化プロジェクトを統括する運営委員会委員長の森敏明さん（住友林業・品質保証部 災害復興センター）は、2018年に発生した台風21号の被災地で現場復興に当たる中、接合形状が共通化されていたCJKマークの平葺き瓦が、迅速な屋根の補修工事に役立っていた事例を目の当たりにしたという。「災害時に被災した施主の負担を軽減する点でも、部材標準化の意義は今後ますます重要になる」と森さんは説明する。

平時でも、長期使用を考慮した住宅は、将来のメンテナンスコストを削減でき、資産価値も保てる。森さんは「長寿化に配慮した設計思想は、引き渡し後もつくり手の信頼感を高める。住宅メーカーも地域工務店も隔たりなく、施主の立場に立った環境整備を続けていきたい」と話す。



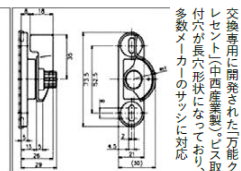
営業の最前線では競合する住宅・建材・設備の各メーカーから参加したメンバーが月1回集まり、垣根を越えて部材標準化の実作業にあたる



協議会が決定した粘土瓦（F）形状の標準寸法



協議会基準書をもとに製造された粘土瓦（写真は三州野安製）大手6メーカーが同一寸法で製造する



交換専用を開発された「万能クレセント」（中西産業製）ビス取付穴が長穴形状になっており、多数メーカーのサッシに対応